

1. 主題・副主題

小学校国語科における
確かな読み取りをもとに、自分の考えを表現できる児童の育成
— 書く活動を位置づけた活動構成の工夫を通して —

2. 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

今の子どもたちが生きる社会は、グローバル化の進展や技術革新等により、予測が困難な時代となっている。また、少子高齢社会の到来による労働生産人口の減少や人工知能（AI）の発達による雇用の在り方の変化していく中で、一人一人が持続可能な社会の担い手として、個人と社会の成長につながる新たな価値を創造していくことが期待されている。これからの社会に出ていく子どもたちには、他者と協働して課題を解決していく力や、様々な情報を見極め再構成するなどして新たな価値につなげていく力、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができる力を身につけていくことが求められている。

AIが自然で大量の言語生成を可能とし、SNS等による広範な発信が可能な時代において、自らの意思をもち考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解・共感といった人間ならではの言語能力がより一層重視されている¹。令和10年改訂の次期学習指導要領においても、言語能力は学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置づけられる方向性となっている²。

言語能力を育成する教科の中核を担うのが国語科であり、国語科における言語能力育成のための学習指導の充実がより一層求められていることを踏まえ、本主題を設定した。

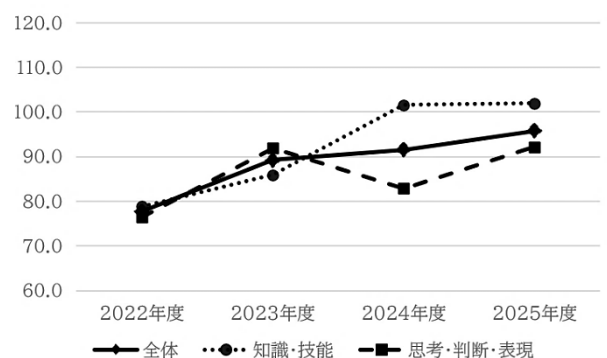
(2) 本校児童の実態から

本校では令和6（2024）年度より、「文章を確かに読み取る国語科学習指導～書く活動を位置付けた活動構成の工夫を通して～」を実施してきた。研究主題のもと、国語科学習の授業改善を通して、「文章を確かに読み取る力」の育成に努めてきた。

令和4（2022）年度から4か年の全国学力状況調査の国語科の結果を見ると、全国標準化得点は改善傾向にある（グラフ1）。しかしながら、依然として本校が目標と掲げている標準化得点100に達していない。特に、知識・技能の得点率は改善傾向にあるものの、思考・判断・表現の得点は依然として低い状況である。

以上のことから、本校児童の実態を見ると、知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の育成が課題として挙げることができ、確かな読み取りをもとに、自分の考えを表現できる児童の育成を目指した本研究

グラフ1 全国学力状況調査経年変化



¹ 令和7年11月28日教育課程部会国語ワーキンググループ資料1では、教育課程全体で育む言語能力のイメージが示され、国語科が果たす役割についての論点整理がなされている。

² 令和7年9月5日中央教育審議会教育課程企画特別部会において論点整理の素案として提示されている。素案では、言語能力を「言語を用いてテキスト(情報)を理解し、文章や発話により表現するための力」として、情報活用能力とともに学習の基盤となる資質・能力として位置づける方向が示されている。

主題を設定した。

3. 主題について

主題における「確かな読み取り」とは、自分の考えを構築する根拠となる文章内容を正確に理解することである。「確かな読み取り」には以下の3点を基礎的な側面として提示する³。

(1) 文脈における語句の意味・働きを理解する力

文脈の中で言葉がどのような意味や働きをしているのか正確に理解することが大切である。同じ意味の言葉でも、文脈の中でわずかな違いを見出すこともできる。正確に文章を読み取るためにも、言葉の意味・働きを理解することが重要である。

(2) 文構造における関係性を理解する力

「主語―述語の関係性」「修飾語―被修飾語の関係性」などを理解することが文章を正しく読むためには必要不可欠である。また、自分の考えを構築するためには、正しい「主語―述語の関係性」を意識することが必要となってくる。

(3) 文章における関係性を理解する力

文章を正しく捉えるためには、「指示語」「接続語」「具体例」「段落間の関係」などを理解することが重要となってくる。筆者の論理展開を理解するために、文書と文章を結びつける言葉を正確に捉える必要がある。また、自らの主張を展開する際にも、この「文章における関係性を理解する力」が必要となってくる。

以上の「正しく読む力」の基礎的な側面を踏まえながら、筆者の主張を要約したり、展開を予測したりするなどの活動展開を実施し、読み取った内容を根拠に自らの考えを構築していくことを目指していく。

自らの考えを構築する際は、資料1に示す各学年の段階で身に付ける事項を踏まえていく。

資料1 各学年段階で身に付ける「書くこと」にかかわる事項

段階	身に付ける事項
低学年	①自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ②語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
中学年	①相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ③自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
高学年	①目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ②筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ③目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ④引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

平成29年告示学習指導要領解説国語編より抜粋

³ 佐賀県教育センターHP「確かな読みの力をはぐくむ国語科指導の在り方」を参照。「確かな読みの力」を日本語の知識・技能、基礎的な側面、運用的側面、実践的な側面に整理している。

4. 副主題について

副主題である「書く活動を位置づけた活動構成の工夫を通して」とは、資料1で示している各学年段階で身に付ける「書くこと」にかかわる事項を意識した学習活動を単元末に取り入れることである。以下のような授業展開を想定する。

(1) 導入—課題をつかむ段階

単元の終わりに書かせる内容を課題として設定し、本文の内容をどのように読むのか児童に意識を持たせる。

(2) 展開—確かな読みを意識させる段階

文章を正確に読み取るための必要な基礎的な力を意識しながら本文の内容を読み取っていく。その際、単元末に書かせる内容を意識した授業構成の工夫を行っていく。

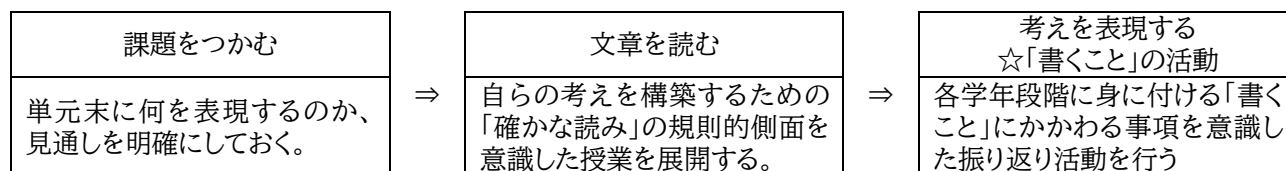
(3) 終末—「書く活動」を位置づけた段階

導入で提示した「課題」に対する児童の考えを書かせる。その際、各学年段階で身に付ける「書くこと」にかかわる事項を踏まえながら書かせる内容の検討を行っていく。

資料2 単元の指導例

単元名	
単元名	「ヤドカリとイソギンチャク」(4年)
課題	ヤドカリとイソギンチャクの関係を伝えるために、筆者がどのように文章を組み立てているのか、考えよう。
単元末に書かせる内容	ヤドカリとイソギンチャクの関係をわかりやすく説明するために、筆者はどのような工夫をしていますか。次の条件に合うように書きましょう。 ①2つの段落にわけて書くこと。 ②1つ目の段落には筆者の工夫を書くこと。 ③2つ目の段落には、「なか」「おわり」の内容にふれながら、理由を書くこと。 ④6行以上で書くこと。

資料3 単元の流れ



「考えを表現する」活動として、単元末に「書く活動」を位置づける。「書くこと」に苦手意識をもつ児童も見られることから、以下のような手立てを実施する。

5. 「書く活動」を位置づけた段階での工夫

(1) 書かせる内容の条件を設定する

「何を(内容)」「どのように(文章の流れや踏まえる事項)」「どのくらい(分量)」書くのかの条件を指定して書かせる。(資料2を参考)

(2) 「書く」内容のフォーマットを提示する

どのように書けばよいかわからない児童について、書き方のフォーマットを提示することが必要となってくる。資料4にあるように、「自らの意見—根拠となる内容」となるように明示しておき、表現の仕方に慣れさせていくことが必要である。

資料4 「書く」内容のフォーマット例

私は○○だと思います。なぜなら、本文で筆者は○○○(本文の記述または要約)と述べているからです。

(3)「書く活動」の前段階でのグループ交流

「書く活動」を実施する前に、「課題」に対する簡単な振り返りを実施し、グループ交流を実施して課題に対する自らの意見を深める工夫を行う。

7. 授業提案

(1) 単元名 「 ヤドカリとイソギンチャク 」(第4学年国語)

(2) 単元の目標

○接続する語句の役割や段落の役割について理解することができる。【知識・技能】

○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを表現することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

○進んで段落同士のまとまりを捉え、学習の見通しを持って、文章の組み立てについて話し合おうとしている。【学びに向かう力・人間性等】

(3) 本時 令和8年5月12日(火) 6校時 於 4年1組教室

① 主眼

段落同士の結びつきに着目して、筆者がどのようにしてヤドカリとイソギンチャクの関係性をわかりやすく伝えているのかを、根拠をもとに自分の考えを表現することができる。【思考力・表現力・判断力等】

② 本時の手立て

○ 筆者がヤドカリとイソギンチャクの関係性をわかりやすく伝えるための段落の工夫について前時まで学習しており、本時の入りで内容を確認する。

○ 何を書くのかを明確にするために、ワークシートに書く内容や書き方の条件を明示しておく。

○ 一度書いた内容を班で交流し、班の人の書き方のよさを考えさせながら、再び自らの考えをワークシートに記入させる。

③本時の展開

	学習活動	手立て
導入	1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。 ○ 前時までに学習した段落のまとまりの特徴を振り返らせる。	○ 段落のまとまりの工夫については板書しておく。
展開	ヤドカリとイソギンチャクの関係性をわかりやすく説明するために、筆者はどのような工夫をしているのだろうか。 2. 前時の振り返りをもとに、自分の考えをワークシートに記入する。 【記述例】 わたしは、「中」の説明の順番に工夫があると思います。 「中」では、ヤドカリがイソギンチャクをつける理由、イソギンチャクの付け方、イソギンチャクの利益の順番で説明してい	○ 初発の考えをワークシートに記入させる。 ○ 初めの理由は簡単に箇条書きでまとめるようにしておく。 ○ 本文のどの部分(段落等)を踏まえて考えたのかを意識させる。 ○ 理由を記述する際に、本文の記

⑤ 児童の記述（抜粋 原文ママ）※漢字については一部修正

	記述
A	わたしは、自分の主張が伝わるようにだん落をくふうして書いていると思いました。 なぜなら、ヤドカリの話から、イソギンチャクの話をしゅんじょだてて書いていたり、たがいに助け合っているということを書いているから、自分の主張が伝わるように書いていると思います。（125字）
B	わたしは、話の順番を意しきしてくふうをしていると思いました。 理由はヤドカリがイソギンチャクをつけているわけと、ヤドカリがイソギンチャクを付ける方法、イソギンチャクを貝がらにつくわけの順番で説明をしていたから、話の順番を意しきしてくふうをしているからです。（127字）
C	ぼくは順じょをいしきして説明しているのがくふうしていると思います。 なぜなら、はじめはどういうないようか、中はイソギンチャクのついていないヤドカリとイソギンチャクをつけているヤドカリの説明で、おわりはヤドカリとイソギンチャクのかんけいの結果で、はじめ、中、おわりがわかりやすかったと思います。（145字）
D	ぼくは、話の順番に意しきしてくふうしていると思います。 理由は、ヤドカリがイソギンチャクをつけているわけと、ヤドカリがイソギンチャクを付ける方法、イソギンチャクはヤドカリに付くわけの順番で説明することがで、筆者が主張するたがいにたすけあって生きていることがとても伝わった。（135字）

⑥ 授業の様子

多くの児童が自分の考えを書くことに苦戦をしていた。どのような工夫があるのかがつかめない児童もいたため、板書で整理しながら理解できるようにした。また、根拠となる内容をどのように本文から書きだせばよいかわからない児童がいたため、班での交流ではどのように書いたのかを中心に交流を深めるようにした。

班交流の中では「本文の具体的な表現を使っている」や「本文の言葉を書き出して説明している」といった説明の仕方についての意見が聞かれた。再度、自分の意見を書かせる段階では、具体的な言葉や文章中の言葉を書き出しながら説明している児童が増えた。

6. 研究推進組織

研究を推進するうえで、低学年・中学年・高学年部会を編成し、同部会のメンバーの研究授業の参観を実施する。なお、他部会への参観は自由とする。また、授業改善の指導的立場として、それぞれの部会に管理職を配置する。

資料3 校内研究組織 【敬称略】

	部員	指導
低学年部会	①池上 野依 ②横尾 岩渕 ③武田 ④堀内	教務
中学年部会	⑤溝口 岡松 ⑥荒木 中尾 ⑦芳野 ⑧原田	教頭
高学年部会	⑨岡本 柳迫 ⑩柴山 岡田 ⑪中谷 池田 ⑫鬼塚	校長

指導案については、簡略したものを使用する。また、事前研修および部研実施後は事後研修を実施し、部会での授業を研鑽していく。

7. 今後の日程

日程	内容	
6月25日（木）	授業提案	☐ 主題研究の提案 ⇒ 授業の様子を録画
7月22日（水）	理論研修	☐ 筑豊教育事務所の指導主事による国語科授業についての研修
7月23日（木） 8月下旬	授業づくり	☐ 9～12月に公開（部研）する授業構想を立てる
9～12月	公開授業（部研）	☐ 終末段階の授業を公開 ☐ 各クラス1本の授業を実施
1月	振り返り	☐ 各部で振り返りを行う